

① 問題提起

「ゆとり教育」が問題になっている。しばらく前から、日本の学校では、かつての受験競争が否定されて、学習内容を減らすなどして子供たちの負担を減らす「ゆとり重視の教育」が行われてきた。では、そのようなゆとり教育は正しいのだろうか。

② 意見提示

確かに、ゆとり教育のおかげで、生徒たちは受験による抑圧から解放されて、自由に生きられるようになった面はある。受験競争が激しかったころ、子供たちは圧迫に苦しみ、意味のない競争に明け暮れなければならなかった。そして、そこから脱落したものは「落ちこぼれ」として、差別的な扱いを受けた。それに比べれば、勉強や競争を強くない現在のゆとり教育は好ましいと言えるだろう。しかし、ゆとり教育は、大きな問題を抱えているのである。

③ 展開(根拠)

ゆとり教育の大きな問題として、大学に入っても専門科目の勉強についていけないほどの学力不足がしばしば挙げられ、技術立国としての日本の将来が危ぶまれている。そして、それ以上に問題なのは、学習内容が減ったため、若者は競争意識を失い、生活にハリをなくしていることである。かつて、若者は他人との競争の中で自分の能力やその限界を知り、自分の個性やアイデンティティを発見していた。だが、現在の若者にはそうした機会が失われている。しかも、学問を重視しないために、若者は知的なもの、難解なものへの敬意を失い、努力を怠る。そのため、若者はいつまでも自己確立ができず、利率的にその時々を快楽を追いかける。努力した上で、自分を作り上げていくという意識を持たない。そのあげくの果てが、都市の歓楽街にたむろし、夜中まで遊び歩く若者の姿なのである。

④ 結論

私は、ゆとり教育が学力低下だけでなく、若者の意欲の低下をもたらし、自己確立を妨げていると考える。その意味で、ゆとり教育に反対である。

競争意識を失った若者は、
論理性を失っている。
(論理性を失った)

良い面をあげる。
自分・他者と
競争を失った若者は
反対
(両利点を持つ)

論文とは何かを論じる → 意見という。論文は章力を必要とするが、文章もその工夫を必要とする。

論とは何かを物事やせむを問う。

① 問題提起 : 設問の字

② 意見提示 : 確かに ~ ということもある。しかし自分も ~ である。

②③④の
現状と課題が
入るための
(文章が逆にある)
可

③ 展開(根拠) : 社会的背景・歴史・経過・原因・結果・理念

④ 結論